

[報告]第 27 回歴史地震研究会参加記

東北大学災害制御研究センター 松岡祐也

§1. はじめに

第 27 回歴史地震研究会の大会が 2010 年 9 月 10 日(金)から 12 日(日)までの期間、東京大学地震研究所を会場として開催された。東京で大会が開催されたのは久しぶりとのことだったが、今大会には久しく参加されていなかった方の参加も見られ、一種同窓会のような雰囲気もあったように思う。私は全日程に参加したが、今回は参加できなかった方や、歴史地震研究に関心を抱かれる方などもおられると思う。そういった方たちのため、今大会の模様について報告する。

§2. 研究発表

3 日間にわたって研究発表が行われた。初日の午前中には 2 つのセッションが開かれた。最初のセッション「災害対応」では 2 本の、次のセッション「地震・火山カタログ」でも 2 本の研究発表が行われた。特に「災害対応」での 2 本の発表、1948 年福井地震の通信調査資料の分析と、関東大震災直後に京都帝国大学によって行われた活動の記録についての発表は、従来あまり知られていなかった資料を紹介したものであり、聞く側の関心を引くものであった。

2 日目は口頭 14 本、ポスター 9 本の発表が行われた。口頭発表は 4 つのセッションに分けられており、最初の 2 つのセッション「南海トラフの地震」・「近世の地震」ではそれぞれ 3 本ずつの発表が行われた。その後ポスターセッションを挟んで「越後・佐渡の地震」・「天然ダムと堆積物」の両セッションでは 4 本ずつの発表があった。いずれの発表とも興味深いものであり、また質疑で交わされる議論でも知見を広めることができた。ポスターセッションでは、それぞれのポスターの前で発表者の解説を熱心に聞く姿や、活発な質疑が繰り返されていた。

最終日は、午前中に 7 本の研究発表があった。「東北の地震」のセッションでは 4 本の、「関東の地震」のセッションでは 3 本の発表が行われた。この日の発表は歴史学系のものが多かったが、専門が異なる方からの質疑が多く、この研究会の特徴ともいえる異分野の知の交流を象徴するように思われた。

§3. シンポジウム

初日の午後にはシンポジウム「描かれた江戸、撮された東京」が開催された。ここでは 3 名の先生方による講演が行われた。江戸・東京という共通のテーマについて、3 名の方には歴史学の視点から(佐藤氏は歴史学専攻ではないが)、江戸・東京と地震をはじめとする災害の関わりについて、異なるアプローチで迫る講演であった。最初の小澤弘氏は「描かれた江戸のイメージ」との題で、様々な江戸の絵図を示しながら、数々の大火や震災の被害に遭ってきた江戸がどのような変遷をたどったのかを解説された。続いて佐藤洋一氏が「撮された占領下の東京」と題して、佐藤氏が調査されている、占領軍(米軍)の兵士によって撮影された終戦直後の東京の写真が紹介され、占領軍が公的に撮影した写真と一兵士が撮影したもので、戦災に遭った東京への視点の違いを解説された。休憩を挟み、最後に北原糸子氏が「変わらぬ江戸・変わる東京」の題で、徳川家康による開府以来の江戸の構造と、東京と名を変えた明治期の区制変更と関東大震災後の帝都復興計画を解説された。普段あまり触れることがないであろう文系(歴史学)の研究に触れたということもあり、講演終了後の質疑・討論では会場から多くの質問がなされた。異なる分野の知の交流という点から、大変有意義なシンポジウムであったと思う。シンポジウム終了後には懇親会が開かれ、参加者の近況報告などで交流を深めあった。

§4. 巡検(見学会)

最終日は午後から、震災に関する史資料が陳列されている東京都復興記念館と東京都慰霊堂の見学会が行われた。東京都復興記念館では、関東大震災に関する写真や図表、震災時の火災によって焼け焦げた陶器などの展示資料を見学し、見学会に参加した会員同士の解説に耳を傾けた。今回の見学会で特に興味引かれたのは、萱原黄丘作の絵巻「東都大震災過眼録」である。この資料は、2008 年に神奈川大学非文字資料研究センターによる復興記念館収蔵庫の調査によって発見されたものであった。当会の会長である北原糸子氏がこの調査に関わっておられることもあって、この絵巻の来歴などについて解説

をして頂いた。また、今年は関東大震災資料調査会に後援頂いたこともあり、東京都慰霊堂の納骨堂や復興記念館収蔵庫の見学ができた。関東大震災・東京大空襲による犠牲者の骨を収めた大きな骨壺が並んでいる納骨堂の様子は、厳粛な雰囲気にも包まれており、震災・戦災について考えさせられた。

§5. おわりに

私がこの学会に参加するようになって 8 年目になる

が、年々研究発表数も増えているように思う。歴史学系の発表が少しずつ増えているのは嬉しいことだが、私個人としては、もう少し歴史学系の若い学生に参加してもらいたいところである。今後歴史地震研究、そしてこの学会がさらに大きく発展していくことを期待したい。

最後に、会長始め役員の方々、今大会の準備に関わった全ての方に感謝申し上げたい。



巡検の一コマ

編集委員会

震災復興記念館の収蔵庫

震災復興記念館の上階に収蔵されていた旧展示物の整理と目録作成を実施した、北原会長と高野氏から、萱原黄丘作の絵巻「東都大震災過眼録」など、収蔵品について解説を伺った。



東京都慰霊堂の祭壇。

関東震災犠牲者の身元不明の遺骨が納骨されている。後に、第二次大戦の空襲による身元不明の戦災犠牲者も納骨された。

慰霊堂両側の壁面には、有島生馬らによる震災時の各地の状況の油絵が被害の様子を今に伝える。